

メッセージアウトライン

マタイの福音書5：10～12

「義のために迫害されている者は幸いです」

[10-12]「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々は同じように迫害したのです」

この10-12節はイエスの教えられた幸福の説教の最後の箇所である。ここでイエスが教えられていることはどのような意味なのか。辞書によれば迫害とは「圧迫して害を加えること、苦しめること、虐げること」などと説明されている。では何のために迫害されるのか。それは「義のため」である。

「義」とは十字架にかかってアダム以来の私たちの罪を贖ってくださった神の御子イエス・キリストを自分の救い主として信じ受け入れることによって与えられる神の恵みである。そしてキリストにあって神の子とされ、神との正しい交わりを持つ者される。

→ II コリント5:21「神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです」

→ピリピ3:9「私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです」

→ガラテヤ2:16「しかし、人は律法を行うことによってではなく、ただイエス・キリストを信じることによって義と認められると知って、私たちもキリスト・イエスを信じました。律法を行うことによってではなく、キリストを信じることによって義と認められるためです。というのは、肉なる者はだれも、律法を行うことによっては義と認められないからです」

→ガラテヤ3:26「あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです」

そして義とされた者は、神のみこころを行い、キリストに従う者として成長していく。

→エペソ2:10「実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良

い行いをあらかじめ備えてくださいました」

→ピリピ2:13「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です」

→Ⅰコリント9:25「競技をする人は、あらゆることについて節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです」

→Ⅰテサロニケ5:10~18「主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目を覚ましていても眠っていても、主とともに生きるようになるためです。ですからあなたがたは、現に行っているとおり、互いに励まし合い、高め合いなさい。……互いの中で、またすべての人に対して、いつも善を行うように努めなさい。いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに望んでおられることです」

イエス・キリストを自分の救い主と信じる者は義とされ、神の子としてそれにふさわしい生き方を実践しようとすることを願う。そしてそれゆえの圧迫、迫害、苦しみを受けることがあるのである。イエス・キリストが地上で歩まれたその歩み、その教えに従う時に、それは現実となってくる。

→ヨハネ15:18~20「世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。しもべは主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたも迫害します。彼らがわたしのことばを守ったのであれば、あなたがたのことばも守ります」

使徒パウロは言う。→Ⅱテモテ3:12「キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます」

旧約時代のモーセ、ダビデ、エリヤ、イザヤ、エレミヤ、ダニエル、その他の預言者たち、新約時代のペテロ、ヨハネ、ヤコブ、パウロ等々、彼らは親切であったにもかかわらず苦しみを受けた。

信仰によって義とされ、神のみこころを行い、心から主に従って生きることがこの世から迫害や苦しみを受ける。こんな理不尽なことはないであろう。しかし、この世は現実にそのような対応をするのである。自分の無知や愚かさ、非常識、短気、

悪行、不品行などによってこの世から苦しみ、非難、刑罰や責めを受けるということはあるであろう。しかし、信仰者は義のゆえにこの世から苦しみを受けるのである。この世は真の神を信ぜず、それに反逆、反抗している世界である。救い主キリストを十字架につけ、代わりに強盗のバラバの釈放を求める世界である。→ヨハネ18:40

しかし、主イエスは「義のために迫害されている者は幸いです」と言われる。人々からののしられ、苦しめられ、ありもしないことで悪口を浴びせられる。なぜ、そんな理不尽で割の合わないことが幸いなのか。それは、その信仰のゆえに受ける苦しみが自分が天の御国の国籍を待つ者であることをはっきり示しているからであり、天において受ける報いが大きいからなのである。だから喜びなさい、大いに喜びなさいとまで言われているのである。キリストのゆえに受ける苦しみは自分が何者であるのかを教えてくれる。永遠の滅びに行く者ではなく、もはや死も悲しみも涙もない永遠の天の御国へ行く者であることを自覚させてくれるのである。

この世のものは過ぎ去っていく。蓄えた富も持って行くことができない。しかし、信仰によって神の前に義とされている者はそれゆえの苦しみや悲しみを受けても、神の用意されている豊かな報い、喜びに満ちた永遠の天の御国へと近づきつつあることを知るのである。

→Ⅱコリント4:17~18「私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです」

クリスチャンはいつでもこの目に見えないものに目を注がなければならない。それこそこの世においてしばらくの間生きる信仰者の生き方なのである。私たちはやがて皆、キリストのさばきの座の前に現れ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受ける時が来る。→マタイ16:27、ローマ2:6~8、黙示録20:12

その時、私たちが受ける報いが大きいということは何とすばらしいことであろうか。神の恵みによって信仰を持つ者、義とされている者はこの世からそれゆえの苦しみ、迫害を受けてもそれは過行くもの、一時的なものに過ぎない。私たちは天の御国の国籍を持つ者であり、大いなる報いを受けることができる者であるので、喜びをもって苦しみをも耐え忍ぶことができるのである。

私たちはこの世から痛みや迫害を受けるなら、それが自分の愚かさや無知、自己中心、不品行、高慢、貪欲、悪行等によるものなのか、それともキリストのゆえなのかということ、よくよく吟味して義のためにのみ痛みを受ける者とならなければならぬ。天において私たちの受ける報いは大きいのである。